

そこで、私たちは、第2年次の研究のねらいとして、児童生徒との信頼関係をつくるためのマニュアル、保護者との連携を図るためのマニュアルなどを総合した、非社会的行動をもつ児童生徒への指導援助を進めるためのプログラムの作成とその検証を設定いたしました。

② 研究の実践

(1)で述べましたねらいのもとに、現在、次のような取り組みを行っております。

① 非社会的行動をもつ児童生徒への指導援助を進めるためのプログラムの作成

このプログラムの作成にあたって、まず、第1年次の研究においてまとめました「非社会的行動をもつ児童生徒への教育相談の進め方」の各項目について、その項目の内容が実践できるようになるためには、あらかじめどのような行動が要求されるかの分析を行いました。

以下、順次それを掘り下げ、項目一目標一具体目標一望ましい具体的行動一対応例とい

うことでまとめております。下にあります表がそのプログラムの一部です。

② 研究協力校における実証的な研究

①で述べましたプログラムが、ねらいとする効果を十分発揮するかどうか、また、その内容が実際的であるかどうかの検証と吟味を行うために、現在、小、中、高それぞれに研究協力校と研究協力員を委嘱し、実証的に研究を進めています。

③ 非社会的行動をもつ児童生徒への教育相談に関する調査の実施

非社会的行動をもつ児童生徒への指導援助の現状を把握するために実施します。

4. おわりに

研究協力校での実践は、着々とその成果をあげてきております。この研究は、本年度末に研究紀要にまとめ、各学校に配布する予定でありますので、ご活用いただければ幸いです。

(担当 松本喜男)

< 非社会的行動をもつ児童生徒への指導援助を進めるためのプログラム > (試案の一部)

項目	目標	具 体 目 標	望 ま し い 具 体 的 行 動	対 応 例
家族への指導援助	家族との信頼関係をつくる	(1) 信頼感を与える。	① 相手に失礼のない身だしなみをする。 ② 相手に対して落ち着いた態度をとる。 ③ 相手に信頼されるような言葉かけをする。	○ 髪型 ○ 服装 ○ おどおどしない。 ○ 柔和な表情をとる。 ○ 子どもの身体の状態を気遣う言葉 ・「お子さんの身体の調子はいかがですか。この前会ったとき元気があまりなかったんで。」 ○ 自分の取り組み姿勢を出す言葉 ・「私のできるだけのことをしたいと思います。」 ・「私の今までの経験を生かして対処していきたいと思います。」 ・「お父さん、お母さんと一緒にお子さんのことについて考えていきたいです。」
		(2) 安心感を与える	① 相手に安心感の与えるような部屋を設定する。	※ 学校の場合 ○ 話し合っている様子が他から見えない。 ○ 話し合っている内容が他に聞こえない。 ○ 他の部屋の話し声が聞こえない。 ○ 明るく落ち着いた感じのする部屋。 ○ 話し合のりに適した広さ。 ○ ゆったりとした椅子。 ○ 相手に緊張感を与えないような椅子の位置、すわりかた。
		(4) 一生懸命聴いている態度をとる。	① 相手に合わせた態度・表情をとる。 ② 受容の気持ちを表す言葉を返す。	○ 相手に向かって座る。 ○ 相手に威圧感を与えないような座り方をする。 ○ うなずきがある。 ○ 話の途中で視線を合わせる。 ○ 真剣に聴いている表情を表す。 ○ 相手の姿勢に合わせる。 ○ 相手の声の調子や、相手の話す速さに合わせる。 ○ 「うん」「そう」「なるほど」「な～るほど」など。
		(5) 相手の気持ちをわらうとする。(共感的な態度をとる。)	① 共感の気持ちを表す言葉を返す。	○ 「それは大変ですね。」 ○ 「それは心配ですね。」 ○ 「～は、～というお気持ちなのですね。」 ○ 「～をするお気持ちは当然ですね。」 ○ 「～とお考えになるのは当然ですね。」
		(6) 非審判的な態度をとる。	① 行為を評価する言葉を言わない。 ② 行為に対して肯定的に考える言葉で返す。	○ 「お子さんに対し、過保護なんですね。」→「お子さんをとっても大事に育てているんですね。」 ○ 「うちの子どもは、のりいですよ。」→「物事に対し、いつも深く考えて行動するんですね。」